

# 書道パフォーマンス 甲子園

このままでは終われない！

毎年、全国から多くの人が集まる書道パフォーマンス甲子園。第13回大会は、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するために中止としました。それは苦渋の決断でしたが、誰もが諦めきれない思いを胸に抱いています。

## 涙の決断

7月26日に開催を予定していた第13回書道パフォーマンス甲子園。多くの選手が伊予三島運動公園体育館で、パフォーマンスを披露することを夢見ていました。しかし、その夢は絶たれることとなります。

書道パフォーマンス甲子園は全国から100校、1000人を超える選手が参加し、現在では本市を代表するイベントとなり、全国の書道パフォーマンスを行う高校生にとって憧れの舞台となっていますが、今年は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、多くの学校で休校措置が

とられることとなりました。この大会は、全国の高校書道部員にとつては夢の舞台であるため、どのような形でも大会を開催したいという思いで協議を重ねましたが、感染症の拡大はとどまることを知らず、夏までのさまざまなイベントが中止となり、書道パフォーマンス甲子園もその例に漏れず開催を断念せざるを得ませんでした。命を守ることを最優先にした結果でしたが、大会に携わる多くの人、出場を夢見ていた選手にとつて非常に辛い決定でした。



昨年の第12回大会優勝作品（長野県松本蟻ヶ崎高校）

## これで終わりにはしたくない!

全国の書道部員―特に高校3年生たち―が今年の大会に懸ける情熱は一層強く、現役の書道部員や先生から意見が寄せられました。それは「大会は中止となるけれども、大会に向けた今までの活動や努力を何らかの形で残したい」というものです。もちろん、大会関係者の思いも同じです。現在、第13回大会に代わる事業



オリジナルの衣装に身を包んだ選手たちが、6分間で熱い演技を披露し、会場を感動の渦に巻き込みます。

について、全国の高校書道部の先生方の力を借りながら日々協議を進めているところです。

第12回大会で活動した高校生企画員。みなさんに「来てよかった」としてもらえる大会づくりを目指しました。



## 高校生がつくる大会

大会では毎年、本戦に出場する選手に加え、市内3校から集まる高校生ボランティアが活躍します。彼らは高校生企画員と呼ばれ、第13回大会では61人が参加する予定でした。昨年の12月から市役所などに集まり、「大会PR班」「交流会班」「アトラクション班」「選手歓迎班」「観客歓迎班」の5つの班に分かれ、ポスター案やキャッチコピーなどを考え、大会に向け準備を進めていました。

高校生企画員の活動は、大会を盛り上げるだけでなく、さまざまな課題について自分たちで考え行動することで、学校生活では得られない体験を積み重ね、大きく成長する場となっています。今年は残念ながら、会場で活動することは叶いませんが、



第13回大会に向けて協議を行う市内3校の高校生企画員。学校はバラバラでも、班員たちと協力してアイデアを出し合いました。

高校生企画員たちが今年の大会に向けて考えてきたアイデアは決して無駄ではなく、後輩たちが来年の大会に生かし、つなげてくれることを期待しています。

第13回大会に代わる事業については、広報7月号でご紹介します。

**書道パフォーマンス甲子園実行委員会事務局（文化・スポーツ振興課内）**  
28・6037

